

6階西病棟

診療科 呼吸器内科、呼吸器外科、リウマチ膠原病科

病床数 51床

看護師数 看護師長1名、副看護師長3名、看護師29名

主な疾患

肺がん、間質性肺炎、COPD、肺炎、気管支喘息、睡眠時無呼吸症候群、気胸、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎、全身性強皮症、血管炎症候群、成人スティル病など

治療・検査

肺がんを始め多くの呼吸器疾患では確定診断のための検査として主に気管支鏡検査、CTガイド下肺生検を行なっています。その後、病状に合わせて外科的治療、化学療法、放射線療法を行なっています。

リウマチ膠原病科では、ステロイドや分子標的薬、生物学的製剤を使用した治療を行なっています。

呼吸器外科では、術前からパンフレットを用いてオリエンテーションを行い、手術後は、全身観察や疼痛管理を行い異常の早期発見に努め、合併症予防の早期離床に力を入れています。

呼吸器内科、膠原病科では化学療法や放射線療法、免疫抑制剤の副作用への早期発見や早期対応ができるように患者がセルフマネジメントを維持できるように個別的な支援を行っています。

呼吸療法認定士がを中心に呼吸器疾患クリンカルラダーを取り入れ、専門的な知識と技術の向上に向けて教育にも力を入れています。

自宅で安心して過ごせるよう、また早期退院を目指して患者や家族の意向を確認しながら医師や看護師、リハビリ、ソーシャルワーカーなど多職種連携をしながら退院支援に力を入れています。特に、呼吸器疾患では、在宅酸素療法が必要になった際に、看護師が中心となって患者に説明・指導を行い、在宅に戻っても安心して過ごせるようにケアを実践しています。

看護の特徴

